

上越民主商工会会長のいわさわ健さんは、このほど日本共産党後援会の「女性のつどい」に参加し、多くの女性に支持を訴えました。



「多くの女性の願いは、なによりも平和と暮らしを守ること。それをまずしっかりと実現させたい」とユーモアを交えて訴え、参加したみなさんから大きな喝采を浴びました。

県が進める「地域医療構想実現に向けた今後の方向性」 その問題点 ⑤

県央圏域では、2023年度開院予定の県央基幹病院の建設に伴い、周辺の5つの公立・公的病院(県立燕労災病院、厚生連三条総合病院、済生会三条病院、県立吉田病院、県立加茂病院)を再編統合し、急性期病院を集約する計画です。それにもかかわらず、より高次の救急医療、高度・専門医療を必要とする場合は、新潟や中越圏域に搬送(5%程度)する予定です。

- * 地域住民は基幹病院の建設を切望してきました。その県央基幹病院の当初の建設計画は大きく後退するものになります。住民への説明会もなく一方的に計画を変更し、既成事実を積み上げる県のやり方は、住民無視で非民主的です。
- * 県央基幹病院一つに救急搬送を集中さ

せ、それ以外の病院は救急を受けつけない体制では、搬送距離が長くなるなどの問題が発生します。また、基幹病院に救急搬送が集中し、パンク状態になることが想定されます。

- * より高度医療が必要な場合、いったん基幹病院に搬送した患者を新潟や長岡に再搬送することになります。このような救急医療体制でよいのでしょうか。住民の願いである「圏域内で完結し、救える命を救ってほしい」という願いがかなえられないことになるのではないのでしょうか。
- * 現在、吉田病院や加茂病院で救急対応している寺泊や弥彦、田上などの住民は三条まで行くことになります。患者や家族の負担が増すことは明らかです。(続く)

日本共産党上越市議員団ニュース

No.724 2021年9月26日

連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
 絡 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
 先 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田(金谷区))

上越保健所管内感染症患者発生状況

(9月17日現在)

PCR検査実施件数 20,722件(前週+947)
 管内陽性件数 335件(前週+17)
 上越市内陽性件数 297件(前週+17)
 陽性率 1.617%(前回1.608%)

広報上越の発行回数減などについて指摘

9月議会総務常任委員会で橋爪議員

9月13～15日に行われた総務常任委員会(橋爪議員所属)では、昨年度の決算審議が行われ、市の広報活動や中山間地施策などが審議されました。橋爪議員は、「広報上越」の発行が月1回となつて1年以上が経過していることから、「月1回ということから、情報がスピーディに伝わらないなどの懸念がある。SNSでアンケートをとつたというが、紙ベースでもアンケートなどをやり、検証し、来年度に向けてどうすべきか方向性を出すべきだ」と指摘しました。

決算審査にあつたの委員会で資料では、「広報上越」について、「月1回にしたことを踏まえ、掲載内容を精査し、ホームページへの情報掲載と組み合わせることにより、総ページ数を抑えながら充実した特集記事を掲載した」と記載されています。市の公式SNSを通じて、「読んでいただくか」「読みやすいかどうか」などのアンケート調査をしたとは言うものの、「月2回発行から1回にしたことへの評価については質問項目に入らなかった」とのことです。

これでは市民の受け止めがわかりません。月1回発行については、今後どのような対応をしていくのか、注目していく必要があります。また、橋爪議員は、中山間地域振興事業の一環として行われた「ふるさと支え合い等推進事業」をとりあげ、この事業をさらに広げていくよう努力することを訴えました。

お詫びと訂正

一部地域向けの先週号の紙面で、文教経済常任委員会の「付帯決議」が「特別決議」となっておりました。お詫びして訂正いたします。



総務常任委員会で発言する橋爪議員

く、そこに住む人たちが自身の愛着、誇りにもつながると認識している。安塚区や吉川区の事例をきちんと精査したうえで、どのように発展させていけるか検討していきたい」と前向きな姿勢を示しました。